



富竹中だより 号外

平成26年10月16日

文責 堀内

1/2

甲府市立富竹中学校 電話 228-0251

本校の学力・学習状況をお知らせします。

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月22日（火）に全国の中学校3年生で実施されました。本校でも3年生89名の生徒が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、両教科ともA：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。

この調査は、教科における成果・課題と生徒の生活状況の実態を明らかにすることで、本校の課題や特徴を分析し、今後の学習指導方法の改善や生活習慣の改善につなげることを目的としています。

去る8月26日に文部科学省から本校の結果が送られてきました。本校でも学園祭などの学校行事への取り組みと平行して、調査結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載します。また、調査に参加した3年生一人ひとりには、個人票をもとに課題等を説明し今後の学力の向上につなげていく予定です。

分析結果の概要

*『全国学力学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、全国平均正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。』

1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語A、国語Bともに全国平均とほぼ同等となっていますが、やや低い状況にあります。数学A、数学Bも同じような傾向にあります。また、両教科とも成績上位者のグループと下位者のグループに分かれつつある傾向にあります。上位者はさらに上を目指し、全体の底上げを図る必要があります。

[参考]教科別平均正答率（全国・山梨県） 問題数国語A 32問、国語B 9問、数学A 36問、数学B 15問

	国語A正答率	国語B正答率	数学A正答率	数学B正答率
全国平均	79.4	51.0	67.4	59.8
県平均	80.0	52.0	66.6	59.7

2 本校の主な課題

国語 A 主として「知識」に関する問題

- ・伝えたい心情をふさわしい言葉に置き換えることに対する正答率が低い。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することに課題がある。
- ・古典の内容を理解することに課題がある。
- ・文字の大きさ、配列などに注意して書くことに対する正答率が低い。

B 主として「活用」に関する問題

- ・落語の登場人物の言動の意味を考え、その姿勢を想像することに課題がある。
- ・文章の構成や表現の仕方、また、ものの見方や考え方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

数学 A 主として「知識」に関する問題

- ・分数を含む一元一次方程式を解くことに課題がある。
- ・図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることに課題がある。
- ・n角形の内角の和を求める式、 $180 \times (n - 2)$ における(n-2)の意味を理解することに課題がある。
- ・度数分布表から相対度数を求めること・ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解すること・樹形図などを利用して、確率を求めることなどに課題がある。

B 主として「活用」に関する問題

- ・予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することに課題がある。
- ・事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することに課題がある。
- ・図形の性質を構想を立てて証明することに課題がある。
- ・付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることに課題がある。
- ・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することに課題がある。

3 教科における主な改善点

- 国語
- ・文章全体を捉えて内容を理解することに課題がある。特に文章が長くなるとその傾向がより強くなるので、教科書だけの学びではなく、読書活動のさらなる推進を図りより多くの文章に触れる機会をつくるよう努める。
 - ・古典にふれる機会が少ないので、できるだけ多くの機会が持てるよう意識して取り組む。
 - ・授業だけでなく、日常生活も含めて、「丁寧に書くこと」の意識を高める指導をしていく。

- ・日本の伝統芸能に触れる機会をつくっていく。
 - ・時代背景、人物相互の関係、場面設定などを押さえた上で、文章の展開に沿った場面や人物の言動を考える指導をする。
 - ・自分の感じたことや考えたことの根拠を、文章の一節や文章の展開に照らして明らかにし、自分の考えを文章として相手にわかりやすく伝えることができるよう、国語の授業だけでなく様々な場で指導する。
- 数学
- ・分数に対して苦手意識を持つ生徒が多いので、通分すること・約分することなど繰り返し確認していくことが大切である。
 - ・ある図形がきまりにしたがって移動してしていることを、視覚的に捉えたり、平行移動、対称移動、回転移動の定義や性質を確認したりする活動の重視。
 - ・具体的な数をxに当てはめて、yが一意に決まるかどうかを確かめる活動の重視。
 - ・資料の傾向を読み取る活動の重視。
 - ・普段の授業において、他の生徒に説明する活動などをさらに取り入れていくことが必要である。
 - ・事柄が成り立つかどうかの判断に応じて、判断した理由を説明する活動の充実。
 - ・証明の方針を立て、その方針に基づいて証明する活動の充実。
 - ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実。

4 質問紙調査の主な特徴

本校の生徒の生活習慣や家庭学習などの主な状況は各項目において全国平均より数値が高く、教科への関心、学習への取り組みに関して高い意欲があると考えられる。しかし、一つひとつの項目を見ると改善しなければならない点が存在していることがわかる。本校の特徴としては以下の通りでした。

*生活習慣について

- ・「朝食を毎日食べていますか」あまり食べない・全く食べない 本校 10. 1% (対県+4.0 対国+3.6)
- ・「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」あまり起きていない・全く起きていない 本校 11. 2% (対県+3.2 対国+3.5)
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」当てはまる 本校 78. 7% (対県+2.8 対国+7.6)

*言語活動・読解力について

- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」当てはまる・どちらかといえば当てはまる 本校 47. 2% (対県-2.9 対国-1.4)
- ・「1、2年のときに受けた授業では、本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っていたと思いますか」当てはまる・どちらかといえば当てはまる 本校 69. 9% (対県+17.4 対国+23.1)
- ・「1、2年のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」当てはまる・どちらかといえば当てはまる 本校 83. 1% (対県+0.9 対国+7.8)

*学習習慣について

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」している・どちらかといえば、している 本校 46. 1% (対県-3.3 対国-0.5)
- ・「家で、学校の宿題をしていますか」している 本校 46. 1% (対県-12.9 対国-17.6)
- ・「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらいいきますか」ほとんど、または、全くいかない 本校 59. 6% (対県+16.0 対国+1.4)
- ・「普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、携帯型、携帯電話、スマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」3時間以上 本校 32. 6% (対県+11.9 対国+12.3)

*学校・地域との関わりについて

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」当てはまる・どちらかといえば当てはまる 本校 39. 4% (対県-21.2 対国-4.1)
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」当てはまる・どちらかといえば当てはまる 本校 82. 2% (対県+1.2 対国+7.9)
- ・「学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたら、誰に相談することが多いですか」先生 本校 7. 9% (対県+5.0 対国+5.0)

5 質問紙調査からの改善点

*家庭・学習習慣の様子から

・朝食を食べない、起きる時間が不規則になるなど基本的な生活習慣が身につけていない生徒が見られる。また、学習よりもゲームなどに費やす時間が3時間以上の生徒が3割以上いる。家庭との連絡を今まで以上に密にしながら生徒の生活・学習習慣を身につけさせていくことが重要といえる。対策として、1・2年「デイリーライフ」、3年「毎日のあゆみ」ノートを使いながら基本的な生活習慣、学習へのアドバイスを続けていきたい。

*言語活動・読解力から

・本校の生徒は、話し合い活動や調べ学習を行うことについてはよく行っており、中学校の授業の中で、そのスタイルが身につけていると考えられる。しかし、人前で話すことが苦手であると感じている生徒もいる。そこで今まで培ってきた話し合い活動や調べ学習のスタイルは継続しながら、まず少人数の中で自分の考えを発表し合う活動を授業の中に取り入れていきたい。

*人とのつながりから

・生徒たちは、教員との間の関係を円滑に進めながら生活していると考えられる。これは相談相手としての教員の比率が国のデータから見ると高くなっていたりすることからうかがわれ、学校での生活に満足しているとみられる。学校での生活が安定しているということは、一つひとつの活動に正面から向き合える素地があると予想される。しかし、地域とのつながりを考えるとあまりよい状況ではない。今後学校の中でも地域の行事への参加を促しながら、地域の中で生活している中学生としての役割を果たしていきたい。